

## 議 事 概 要

会 議 の 名 称	令和3年度第2回弘前市伝統的建造物群保存地区保存活用審議会	
開 催 年 月 日	令和4年3月24日(木)	
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後1時30分から午後3時20分まで	
開 催 場 所	弘前市役所市民防災館3階 防災会議室	
議 長 等 の 氏 名	弘前市仲町地区伝統的建造物群保存会会長 今井 二三夫	
出 席 者	中部仲町町会長 西部仲町町会長 時敏地区子育て支援員 弘前市仲町地区伝統的建造物群保存会評議員 弘前市文化財審議委員長 青森県立弘前工業高等学校教諭 東北工業大学建築学部准教授 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院特別研究教員 弘前市消防団第一方面団長 弘前市財務部財政課長(代理出席) 弘前市観光部観光課参事(代理出席) 弘前市建設部長 弘前市都市整備部長兼まちづくり推進監 【リモート出席】 工学院大学理事長	黒瀧 儀之 北畠 昌夫 工藤 綾子 小林 敬子 福井 敏隆 岡田 俊治 中村 琢巳 中尾 方人 久保 順一 今井 郁夫 村山 佳光 花岡 哲 天内 隆範 後藤 治
欠 席 者	なし	
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	教育部長 文化財課長 文化財課長補佐 文化財課主幹 文化財課総括主査 文化財課主事	鳴海 誠 小山内 一仁 鳴海 淳 小石川 透 村上 真知子 清野 優雅

<p>会議資料の名称</p>	<p>資料 1 - 1 : 弘前市仲町伝統的建造物群保存地区防災計画見直し調査について  資料 1 - 2 : 弘前市仲町伝統的建造物群保存地区防災意識調査報告書 (暫定版)  資料 2 - 1 : 弘前市仲町伝統的建造物群保存地区保存活用計画の変更について  資料 2 - 2 : 弘前市仲町伝統的建造物群保存地区保存活用計画 (変更案)</p>
<p>会議内容  ( 発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等 )</p>	<p><b>1. 開会</b></p> <p><b>2. 審議会会長あいさつ</b></p> <p><b>3. 会議</b> 議長：今井会長</p> <p><b>議題①弘前市仲町伝統的建造物群保存地区防災計画見直し調査について</b></p> <p>事務局より説明。質疑、意見等は以下のとおり。</p> <p><b>中尾委員</b>  旧伊東家・旧笹森家住宅については、これまで見てきた伝統的建造物の中では、雪国ということもあり比較的強固な造りになっている印象だが、積雪荷重などを考慮すると耐震補強が必要な診断結果となっている。また、積雪荷重を軽減させるため雪下ろしなどのソフト的な対応とあわせて行うことで効果的な取り組みになると考える。</p> <p><b>中村委員</b>  調査1年目終了段階で、各チームから非常にボリュームのある調査結果や対策の提案がまとめられており、今後は、「短期」「中期」「長期」でそれぞれ取り組みべき課題や優先順位などのメリハリをつけた提案が必要と感じている。  複合災害に関しての検討が必要という意見が各チームから上がってきているので、来年度の調査では複合災害の中でも優先順位をつけて検討すべき事項などをまとめていきたい。  震災について、震度5～6の場合だと倒壊はしないが土壁や建具が損傷する事例が多く見られる。現在の報告書案では、被害想定にふれているのは水害だけになっているが震災においても、被害想定を盛り込んだ方が良いのかどうかを検討していきたい。</p>

### 黒瀧委員

中部仲町町会の実情について説明したい。町会内の世帯の約半数以上が高齢者世帯であり、町会役員のなり手が不足している状態であるため、町会の役員会で自主防災組織について検討したが現状では難しいという結論に至った。

また、空き家のサワラ生垣や樹木について、維持管理が不十分で危険な箇所が地区内で散見されるので文化財課からも所有者に働きかけるなど行政が積極的に関わるようにしてもらいたい。

石畳風舗装の道路について、路盤がはがれて小石が散乱し非常に悲惨な状況であるので、早急に改善をお願いしたい。

さらに、冬場の除雪状況について、特に雪の多かった今年を除排雪状況が非常に悪く、災害時、緊急車両が地区内に入って来れないのではないかと危惧している。加えて、除雪の回数が少ない、同じ町会でも通りによって除雪の仕方（丁寧さ）が違うなど、非常に多くの苦情が町会内から寄せられているので、雪対策の改善を強く要望する。

### 北島委員

西部仲町町会では小型除雪機を活用した除雪隊を編成し、町会独自でも除雪を行っているが除雪機1台では町会全域をカバーするのは困難な状況。高齢者の世帯などは、自宅の敷地内の除雪をするだけで精一杯なので、保存地区内の空き地を雪置き場として活用することを検討してもよいのではないか。保存地区の防災対策という観点からも、水害や震災対策も重要だが、雪対策としてしっかり予算を組むなどの対応をしてもらいたい。

### 工藤委員

石畳風舗装の道路の状況については、黒瀧委員の言うとおりの早急に改善を進めてほしい。また、空き家についても、安全面だけでなく美観を損ねているので何かしらの対策をお願いしたい。消流雪溝については、整備してもらい大変感謝している。

### 小林委員

空き家からの落雪により道路がふさがれるといったことがあったので、空き家の所有者に連絡して雪下ろしをお願いするなどの対応があってもいいのかなと思う。

今冬の除雪について、できるだけ寄せ雪を置いていかないよう業者に話したところ、作業時間が限られており急いでいると言われたが、そうではなく丁寧な作業を心がけるべきではないか。

### 福井委員

旧岩田家住宅と旧梅田家住宅の耐震診断は行わないのか。  
→【事務局】旧岩田家・旧梅田家住宅の耐震診断については、令和4年度の調査で実施する予定。

石畳風舗装の現状に関して、地元町会や地区住民の方々からの切実な意見をこの審議会でも毎年のように聞いている。景観に配慮して施行したのは理解するが、地区住民からこれだけ改善の要望が出されている状況では、道路舗装に関して抜本的な見直しが必要ではないか。

### 岡田委員

耐震対策について、倒壊を防ぐのはもちろん重要ではあるが、文化財建造物という観点からやみくもに構造用合板耐力壁を配置するのはいかがなものかと思う。雪下ろしなどのソフト面での対策をいかに組み合わせて行うかが重要になるのではないか。

「有事の際には公開武家住宅を防災拠点として活用することを検討」とあるが、この場合の防災拠点とはどのような性格のものを考えているのか。

→【事務局】震災の際の避難場所として活用ということではなく、例えば、近隣で火災が発生した場合には、公開武家住宅に設置している消防設備を活用して初期消火を行うことができるようにしてはどうかという意味で検討している。

### 今井委員長

防災拠点については、西部仲町町会で組織している自主防災組織としては、町会内にいわゆる町民会館などの施設がないため、災害時には一時避難場所として公開武家住宅を活用したいという考えはある。

### 久保委員

消防団では、消防事務組合とともに冬場に消火栓の掘り起こしを定期的に行っているが、車の通行に支障が出るため埋め戻している。空き地を活用して地上式の消火栓を設置することも可能ではあるが、所有者の承諾が必要であり、また所有者が代替わりした場合も同様に承諾を得る必要があるので現実的には難しいと考える。

また、火災対策の初期消火への対応について、必要な機材の導入した際には消防団として積極的に協力していきたい。

### 今井財政課長

委員の方々から出された日常生活や防災対策に関する意見などを踏まえ、関係部署と情報共有しながら予算面でもしっかり対応していきたい。

### 村山観光課参事

保存地区は観光面においても外部から非常に高い評価をもらっている。今後、新型コロナウイルス感染症が収束した際には、外国人観光客が大幅に増加すると思われるため、災害時の情報発信の仕方なども考えていく必要があるのではないかな。

### 花岡委員（建設部長）

建築指導課で空き家・空き地対策の事業があり、現地調査も含めて行っているので、連携して実施していければと感じている。

道路舗装については、町会の関係者と以前から協議しながら令和4年度から4年間で舗装をかけなおすことを計画しており、場所などの詳細については町会長と相談しながら事業を進めていきたいと考えている。

多くの要望のあった除雪については、今年は積雪深 112 センチと6年ぶりに 100 センチを超えるなど例年に比べ雪が多く、市内全域において細やかな除雪が行き届かなかったが、今後は生活道路も含め迷惑をかけないように除雪を行っていきたい。

### 天内委員（都市整備部長）

雪対策について、地区あるいは町会内で対応することが難しい場合には、広域的に対応する、例えば余力のある近隣の町会などの力を有償で借りるなど、市内一律の仕組みで対応するのではなく、その地域・町会にあった仕組みを今後考えていく必要があるのではないかな。こういった雪対策や防災・防犯対策をきっかけにして、地域コミュニティの強化につながっていけばよいのではないかな。

防災対策としては、リスクをゼロにするというのではなく被害を軽減させるという観点から、まずはソフト対策から取り組みつつ、ハード整備については長期的な計画として取り組むということが必要なのではないかな。

### 後藤委員

参考事例として、空き家について、長野市戸隠の伝建地区では保存会の有志が外部の資本を入れて空き家をワーケーションオフィスとして活用しようと動いており、市も支援している。

また、被災時の一時避難場所として活用することを考えて、空き家を健全な状態で維持管理しておくことも今後、検討していくべき全国的な課題なのではないか。

災害発生時には、大小関わらず何かしらの被害が生じるが、その場合、いかに素早く復旧対応に取り掛かれるかが重要であり、そのためには技術を持った職人や工務店が地元にいる必要がある。弘前は文化財建造物が数多くあるので、定期的な修理事業などで経済的には負担と感ずるかもしれないが、その修理事業を地元の職人や工務店に発注することで技術の継承などに還元させることになる。

### 黒瀧委員

町会の役員会などでは、10～15年後には高齢者世帯や空き家がさらに増え、町会が解散になることを危惧する声もある。地区住民が生活していてこそその保存地区だと思うので、例えば、保存地区ならではの暮らし方や住宅の建て方といったことをコンセプトに、工務店や不動産業者などと連携してモデルルールを作ってアピールするなど、次の世代あるいは若い世代を呼び込むような取り組みも必要ではないか。

### 中村委員

今回の防災計画見直しについては、保存地区は景観のよい町並みということだけでなく、防災面においてもメリットのある地区だということを改めて地区住民に認識してもらいたいと考えているので、このことを地区住民にしっかりと伝えられるよう引き続き、調査を進めていきたい。

議題②弘前市仲町伝統的建造物群保存地区保存活用計画の変更について

事務局より説明。質疑、意見等は以下のとおり。

#### 中村委員

保存活用計画の環境物件について、保存計画の見直し調査では樹木の中で価値のあるもの（100年生を超えるもの）が約70本あったが、今後、環境物件の追加指定についての予定などはどうなっているか。

→【事務局】保存計画の見直し調査でリストアップされた貴重だとされた約70本の樹木の中から、特に貴重と認められる樹木を10本程度選定しているので、まずは特に貴重な樹木の追加指定を進め、その後にリストアップされた貴重な樹木の追加指定を進めていければと考えている。

#### 4. 閉会